蒼い星の輝き

藍猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
蒼い星の輝き

【Ｎコード】
Ｎ５４４６Ｙ

【作者名】
藍猫

【あらすじ】
特別な力をもつ「蒼い星」・・・
それを守護する「桐ヶ谷一族」・・・
そしてそれを持って現れた記憶喪失の少女
少女はどのようにして生きていくのか　という物語デス

プロローグ（前書き）

処女作なので期待はしないで下さい（　＞　＜）。。

これでも頑張ったので

見ていってくれるとうれしいです

プロローグ

昔、蒼い星が降ってきた。

特別な力をもつその「星」は、持つ者にすばらしい力を与え、
幸運をもたらしたという。

いずれその「星」を我が物にせん　と企む者が現れ、
たちまちに争いとなった。

そして、「星」を手に入れた「桐ヶ谷一族」は、
もう争いを起こさせないように、
「星」を代々受け継ぎ、
普通の家宝として「星」の力を隠蔽した。

「星」は今なおも存在するという・・・

木が　森が　家が　　燃えている・・・

逃げなければ！

！　炎の龍が前に！

・・・逃げられない

「あなただけでも逃げてください」

誰が言ったのか分らなかった

急に目の前が明るくなった

そして暗くなっていく

・・・世界が暗く・・・

プロローグ（後書き）

打つのになれていないので、
更新はおそくなると思います
１話目だけどみてくださって
ありがとうございます。

1話　葵　1（前書き）

最初っから遅いですね・・・

すいません・・・

でも頑張りますっ

1話　葵　1

「・・・」

白く、すっきりした片付いた部屋に1人、少女がベットにいた。

上半身を起こし、重ねた手を見つめる。

ほっそりした指をからめたり、開いたりして時間を潰す。

透き通った蒼めの髪が揺れる。

首を回すと窓が開いていた。

「・・・風。気持ちいい・・・。」

心地良い風を浴び、目を瞑る。

心が安らぐ。でも、少しもやもやする。

だってここがどこかわからないから。

目をゆっくり開けて、呟く。

「ここ・・・どこなのでしょう？」

この白い部屋に見覚えはない。

いや・・・それ以前に

私は誰なのでしょう？

手を目の前に持ってきて広げる。

細いきれいな手。

「私の手？」

手に問いかけても答えは返ってこない。

当たり前のことだけど・・・

・・・？ここも自分の名前も分らないのに、どうして当たり前のことだと分るのかな・・・？

何気ない仕草で頭をかかえる。

動かないといつまでも前に進めない　と思い、床に足をつける。

そして・・・

1話　葵　1（後書き）

あああああ・・・

ほんとはもう少し長い予定でした・・・

2話　葵　2（前書き）

遅くなりました。。。
1話の続きです！

2話　葵　2

そして・・・

ガラ

扉が何の前触れもなく開く。

少女は片足をつくたまま硬直する。

部屋に入ってきたのは、綺麗な女性だった。

少しつり上がった目、白く透けそうな肌、全体的にバランスのいい体。

悪いとこなしのお嬢様のような雰囲気を放っている。

少女はしばらく魅入ってしまった。

「？　どうかした？」

少女の視線に気付いて目を見返してくる。

透き通った声もこの女性に合っている。

魅入ってしまったことを恥ずかしく感じ、少女は目を逸らす。

女性は眉を寄せる。

「ところで、君は誰なの？」

「え？あ・・・えと・・・私は・・・。」

そこまで答えて気付く。

（そういえば・・・名前分からないんだった・・・。）

「私は・・・。」

（どう答えればいいんだろう・・・？正直に言って、信じてもらえるかどうか・・・。）

「記憶・・・ない？」

「！！」

心を読んだ様に言う女性に絶句する。

「ど、どうして・・・分か・・・？」

「君の事を少し調べさせてもらったの。」

言い終わらない内に答える。

「調べる・・・？私を・・・・？」

「ええ。」

部屋の中が静まる。風も止まっていた。

「君の記憶・・・『ない』というより『封印されている』みたいって

先生たちが言ってたわ。」

記憶を封印？　誰が？　何のために？

聞きたいことは沢山あった。けど口に出たのは、

「先生？」

――――だった。　何となく何故、先生　なのか分からなかったから。

「ええ。ここは星影学園・・・あー・・・分かんないよねぇ・・・・。

簡単に言うと、ここは能力者の学校なの。だから『封印』だと分かる人が1人くらい

居てもおかしくはないでしょう？」

ねっ　とにっこり笑う。

「まっ、だからと言って『封印』だと確定は出来ないのだけど。」

記憶・・・封印・・・能力・・・学校・・・。

少女は混乱しながらも声を捻り出す。

「あなた・・・は・・・？」

能力者なの？　という言葉を出す前に女性は答える。

「自己紹介するわね。　私は星影杏里（ほしかげあんり）。この学園の学園長、星影忍（ほしかげしのぶ）の孫にして、美人である　と有名な天才よっ！
ちなみに、能力は細剣（レイピア）。レベル６　よ。」

「レイピア・・・？　細剣・・・？」

「そう細剣（レイピア）よ。能力説明は簡単なの。
基本、細長い物があれば剣に変えることが出来るし、レイピアを持つことで、
それを使いこなす、普通の人には出来ないことが出来たりする能力なのよ。」

「ど・・・どうしてそんな能力が？この学園の人は皆・・・？」

「そうよ。どうしてか　ってのを私に聞かないでね。
そういう事は私より、他の人のほうが詳しいわ。」

杏里は誇らしそうに胸を張る。勿論、説得力は全然ない。

「ところで君・・・君、君って面倒くさいわね・・・。
髪が蒼いし・・・『葵』ってのはどう？君の、仮の名前だけどね。」

「・・・『葵』。」

謎は多いまま、その時から、

『少女』　は　『葵』　となった。

2話　葵　2（後書き）

次からはややこしくないように、1と2とには分けずにやる予定です。。。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5446y/

蒼い星の輝き

2011年12月11日22時54分発行